

検討会報告書(案)に関して 寄せられた意見一覧等

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
8	日本電気株式会社 廣江様	世界的に安全・ 安全 な社会の構築に欠かせないものとなりつつある。	世界的に安全・ 安心 な社会の構築に欠かせないものとなりつつある。	誤記と思われる。	そのように報告書を修正する。
13	日本電気株式会社 廣江様	「太陽 活動 による電波障害」	「太陽 フレア による電波障害」	本文と表の文言が一致していないので、対応を明確にするため。	そのように報告書を修正する。
13	日本電気株式会社 廣江様	(表1) 地磁気嵐 の被害例として、「全地球衛星測位システム(GNSS)への精度の影響」がある	(表1) 電離圏嵐 の被害例として、「全地球衛星測位システム(GNSS)への精度の影響」を記載すべきでは？	GNSSへの影響は地磁気嵐が直接関係するわけではなく、地磁気嵐の影響で、電離圏が乱されるために精度に影響があるため、記載場所を移した方が良い。	国連防災機関(UNDRR)発行のテクニカルレポートではGNSSに対する影響が記載されているが、誤解を招かないよう報告書から当該部分を削除する。
13	東京電力パワーグリッド 千喜良様	地磁気誘導電流(GIC)による送電網へ 運用 への影響	地磁気誘導電流(GIC)による送電網への影響	ここでいう「運用」の意味が不明確。送電網にGICが流れるということなので、送電網への影響が適切な表現か。	そのように報告書を修正する。
19	NICT 長妻	(多国間・国際機関の協力的枠組み)への追記	また、宇宙からの気象観測・宇宙天気観測を実施している機関で構成される気象衛星調整会議(Coordination Group for Meteorological Satellite; CGMS)には、宇宙天気調整グループ(Space Weather Coordination Group; SWCG)が設置され、人工衛星による宇宙天気観測やデータ活用等に関する議論が行われている。	人工衛星による宇宙天気観測やデータ活用に関する議論を行っている多国間・国際機関の協力的枠組みなので、追記して頂くのが良いと考えます(NICTはCGMS/SWCGの共同議長を務めております。)	そのように報告書を修正する。
20	日本電気株式会社 廣江様	電離層	電離圏	電離層と電離圏は使い分けられていると思われる。報告書内に「電離層」は4か所出てくるが、この2か所は「電離圏」の方が適切と思われる。	そのように報告書を修正する。他の2か所(P11、P13も「電離圏」に修正する。P13は「電離圏(F領域)」とする。
20	NICT 長妻	○また、 磁力圏 の観測については、	○また、 磁気圏 の観測については、	誤記と思われるので、修正をお願い致します。	そのように報告書を修正する。

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
22	NICT 長妻	近年の改良により、 1000年に一度起こるかどうかの稀で 極端に大きな現象(極端現象)でも再現可能なコード開発を進めている。これにより、極端現象の発生時の影響を正確に推定することが可能になると期待される。	近年の改良により、極端に大きな現象(極端現象)でも再現可能なコード開発を進めている。これにより、 将来的には1000年に一度起こるかどうかの稀な 極端現象の発生時の影響を正確に推定することが可能になると期待される。	我々の磁気圏モデル開発の取組への期待が込められた原案と理解をしておりますが、現在は、ここ10-20年間に実際に発生したレベルの極端現象の再現・検証を通じてコードの改良を進めているところですので、1000年に一度の極端現象の推定については、将来的な課題とさせていただきます。	そのように報告書を修正する。
32	NICT 長妻	明文化された規定類を整備し、担当する職員が 自信をもって 予報・警報の発表を行うと共に、	明文化された規定類を整備し、担当する職員が これに基づいて 予報・警報の発表を行うと共に、	明文化された規定類を整備することと、職員が自信をもって予報・警報の発表を行うことには直接的な関連性は無く、大事なことは、明文化された規定類に基づいて予報・警報の発表が行われることだと思われるため。	そのように報告書を修正する。
33	日本電気株式会社 廣江様	「さらに、・・・電磁パルス(EMP)爆弾の脅威に対処することが必要となっている。・・・」	(修正案を提案できません)	前の文章の内容から他の脅威の例としてEMP爆弾の話に展開されていると想像するが、説明がないので、なぜ爆弾の話につながるのかが理解できない。宇宙天気の内容からは逸脱しているので、削除してもよいと思うが、各機材が受ける影響が似ているので記述を残すのであれば、もう少し丁寧に文脈をつないだほうが良いと思う。	本記述は小見出しの「我が国の安全保障への対応」のパートの一部として記載されたものであり、文脈に関しては問題がないと考えるため、原案のとおりとする。
35	日本電気株式会社 廣江様	「基準の検討作業に積極的に参加すべき である。 」「臨機応変に基準類を見直していくことが 求められる。 」	それぞれ文書を「基準の検討作業に積極的に参加すべき でありその会議体や仕組みを検討すべきである。 」「臨機応変に基準類を見直していくことが 求められるため、その会議体や仕組みを検討すべきである。 」に変更する。	おそらく、今は存在しない会議体や仕組みを制定する必要があると考えられるため。	そのように報告書を修正する。
36	東京電力パワーグリッド 千喜良様	100年に1回程度 の頻度で発生する極端な宇宙天気現象	100~1000年に1回程度 の頻度で発生する極端な宇宙天気現象	第8回検討会でそのように説明されていたため	「100年に1回またはそれ以下の頻度で発生する極端な宇宙天気現象」と修正する。

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
36	日本電気株式会社 廣江様	甚大な被害をもたらす ことが判明した。	甚大な被害をもたらす 可能性があることを想定した。	あくまでも想定であり、何かの結果により判明したのではないと思われるため。	WGの検討(想定)の結果として導かれた(判明した)最悪シナリオであることから、その旨を明確化するよう本文を修正する。
36	東京電力パワーグリッド 千喜良様	我が国の社会経済や国民生活に甚大な被害をもたらす ことが判明した。	我が国の社会経済や国民生活に甚大な被害をもたらす ことが想定される。	最悪シナリオ自体が想定だから。また、電力分野における「保護装置の誤作動が発生し、広域停電が各地で発生する」というメカニズム等の説明も無く、想像であるため。	WGの検討(想定)の結果として導かれた(判明した)最悪シナリオであることから、その旨を明確化するよう本文を修正する。
38	日本電気株式会社 廣江様	航空機の運休 や空港閉鎖	航空機の 多数の 運休	レーダが使用できない場合、IFRではなくVFRでの飛行になると想像する。その場合、空港閉鎖にはならないが、多数の運休/減便が予想される。	そのように報告書を修正する。
38	送配電網協議会 宮村様	・電力系統においては、磁気圏じょう乱により地磁気誘導電流(GIC)が発生し、設備上・運用上の対策を措置していない電力インフラにおいては、保護装置の誤作動 が発生し、広域停電が各地で発生する。 ・ 誤作動が起きなかった場合も 一部の変圧器の加熱による損傷が 各地で 発生し、電力供給に影響が出る。	・電力系統においては、磁気圏じょう乱により地磁気誘導電流(GIC)が発生し、設備上・運用上の対策を措置していない電力インフラにおいては、一部の保護装置の誤作動 や 、一部の変圧器の加熱による損傷が発生し電力供給に影響が出る可能性がある。	GICの電力インフラへの影響は、設備形態により異なることや、保護装置については、フィルタで直流成分を除去できるデジタルリレーが主な電力系統に採用されていることから、GICによる保護装置誤作動により「広域停電が各地で発生する」との記載は、電力への影響について誤認を与える。このため、変圧器への影響と合わせて、「電力供給に影響が出る可能性がある」との記載に修正。また、保護装置誤動作や変圧器の損傷が電力供給に必ずしも影響するものではないため、可能性がある旨に修正。	「設備上・運用上の対策を措置していない電力インフラにおいては」と発生条件を限定的に記述しており、また、国内の全ての電力事業者においてそうした対策が措置されているかどうかについて実態は不明であるため、原案のとおりとする。また、最悪シナリオであることから、発生し得る事象は全て断定調で記述するようにしている。なお、前述のとおり限定的な発生条件が記述されていることから、「各地で」(2カ所)は削除する。
38	東京電力パワーグリッド 千喜良様	保護装置の誤作動が発生し、 広域停電が各地で発生する	保護装置の誤作動が発生する	570Aが電力設備のどこに流れるか分からない状況で、「各地で発生する」というメカニズムが不明であるため。	「設備上・運用上の対策を措置していない電力インフラにおいては」と発生条件を限定的に記述しており、限定的な発生条件が記述されていることから、「各地で」(2カ所)は削除する。

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
38	東京電力パワーグリッド 千喜良様	なお、我が国ではこのような全分野にわたる最悪シナリオの策定は初めての試みであり、被害に関する定性的・定量的な確固たる想定手法は確立されたものではない。このため、今後新たに発生する宇宙天気現象や最新の学術研究、社会学・経済学の立場からの調査研究等の結果を持ち寄りつつ、さらには国際間の共同研究にも取り組むことにより想定手法を確立し、最悪シナリオの不断の見直しと修正が行われるべきである。	??(何を記載したいのかわからないため)	文章が意味不明。最悪シナリオの不断の見直しを行っても、「被害に関する定性的・定量的な確固たる想定手法は確立されたものではない」は解消されないのではないか。	具体的な修正案が示されていないため、原案のとおりとする。
39	東京電力パワーグリッド 千喜良様	さらに、今回想定したエクストリーム・イベントは100年に1回程度の頻度で発生する現象を想定したものであるが、1000年に1回程度発生するような、より大規模なイベントについても被害想定を検討作業が今後必要である。	削除	元々、100～1000年に1回の想定事象のため(と第8回検討会で説明があったため) 図11でも「1000年に1回」と整理されている	そのように報告書を修正する。

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
41	NICT 長妻	宇宙天気現象は、宇宙環境が人類にもたらす異常な自然現象である。宇宙天気現象がもたらすハザードは、	極端な宇宙天気現象は、宇宙環境が人類にもたらす異常な自然現象である。極端な宇宙天気現象がもたらすハザードは、	p.8(2)「宇宙天気現象」とは、において、宇宙天気現象とそれに伴う変動を日常的に発生している、と記述しているため、異常な自然現象として取り扱う部分については、「極端な宇宙天気現象」と記載するべきと思われます。同様に、(災害対策基本法に基づく対処)内で現在「宇宙天気現象」と記載されている部分については、「極端な宇宙天気現象」に修正することが適切と思われます。	そのように報告書を修正する
42	日本電気株式会社 廣江様	(表8)測位利用の項目に「太陽電波バースト」が関連する宇宙天気事象として記載されている。	通信・放送、航空運用の項目にも「太陽電波バースト」を記載した方が良い。	表7では通信・放送、航空運用の項目の中で、太陽電波バーストについて触れているが、測位利用では全く記載がない。表8はその逆で測位利用にのみ記載がある。最悪シナリオと完全に整合を取る必要はないかもしれないが、この件については少し整合を図ったほうが良いように思える。	そのように報告書を修正する。
42	スカパーJSAT株式会社 宮田様	表8 分野:衛星運用 発生する被害:衛星通信への影響 被害を起し得る宇宙天気事象:電離圏シンチレーション	電離圏シンチレーション(注1) 注1:主にS帯以下の低い周波数で影響あり	広く衛星通信で使用される周波数であるC帯やK帯では、電離圏シンチレーションの影響はほぼ無く、誤解を招かない記述が望ましいと考えるため。	報告書において注記を追記する。
47	スカパーJSAT株式会社 宮田様	(国による研究開発の支援)の二点目 ○よって、国は、学术界・産業界に対して、宇宙天気現象の観測・分析・予報に関する研究開発等を支援する枠組みを検討すべきである。	以下を追記。 さらに、開発した機器の衛星への搭載や運用等についても支援する枠組みを検討するべきである。	開発の支援に留まらず、開発した機器を利用できる状態に至るまでを支援することで、より実効的な支援内容となるため。	「研究開発及び開発機器の実装等を支援」と修正する。
47	日本電気株式会社 廣江様	電離層	電離圏	電離層と電離圏は使い分けられていると思われる。報告書内に「電離層」は4か所出てくるが、この2か所は「電離圏」の方が適切と思われる。	そのように報告書を修正する。
50	日本電気株式会社 廣江様	図15の宇宙天気現象の項目について	表8(P.42)の被害を起し得る宇宙天気現象の記載を盛り込むべき?	現状の報告書だとせっかく起り得る宇宙天気現象を洗い出したのに図15に洗い出した情報(太陽電波バーストと中規模伝搬性電離圏(じょう乱MSTID))が含まれていない。PSTEPの報告書からの抜粋なので、修正規模や検討が大きくなってしまったため、今のままでも仕方がないかもしれない。	図15はPSTEPからの抜粋であることが明記されているため、原案どおりとする。

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
50	日本電気株式会社 廣江様	一方、衛星測位には <u>二</u> の周波数帯を用いる方式や複数の周波数帯を用いる方式があり、方式によって精度劣化の程度は異なる。	一方、衛星測位には <u>一</u> の周波数帯を用いる方式や複数の周波数帯を用いる方式があり、方式によって精度劣化の程度は異なる。	誤記と思われる。	そのように報告書を修正する。
51	日本電気株式会社 廣江様	(なし)	(今後の対処の方向性)に追記 「 <u>また、電離圏の遅延量の影響を大きく受ける1周波コード相対測位については、2周波コード相対測位により、電離圏の影響を軽減する、もしくは、事前に影響を予測し、代替手段による測位を利用するなどの回避方法の検討も想定される。</u> 」	P.49に記載との通り、測位方式により影響の度合いは異なるため、安価な受信機が登場すると、電離層の影響の少ない2周波測位に移行していくことが予想されるため。また、代替手段による回避は今でも行われており、干渉の影響による測位不能という問題もあり、この回避方法は方向性としては想定内と思われるため。 ※航空運用も同様であるが、冗長のため、そちらへの追記は不要と思う。	そのように報告書を修正する。
52	JAXA 木本様	-----	(影響の概要) <u>○上記不具合、運用異常の教訓を踏まえ、衛星障害を未然に防ぐための地上での検証試験等を含めた設計標準類が整備された。</u>	事例の発生後、原因究明をはじめとする教訓、知見を反映させる活動が行われたため。	そのように報告書を修正する。
52	スカパーJSAT株式会社 宮田様	図16 宇宙天気の影響マトリクス(衛星の表面帯電)(出典:PSTEP 報告書)	「サブストーム高温電子」のみでなく、以下の宇宙天気現象を追加する。 <u>・放射線帯電子</u> <u>・太陽光エネルギー粒子(SEP)</u> <u>・超高層大気の過熱</u> <u>・電離圏シンチレーション</u>	衛星運用に影響する宇宙天気事象は「サブストーム高温電子」だけではなく、p.42の表8宇宙天気現象により発生する被害とその原因の衛星運用の分野として記載されている項目をカバーする方が良いと考えるため。	本図は単なるPSTEPからの抜粋であり、そのことを明記しているため原案のとおりとする。
52	宇宙天気ユーザー協議会 五家様	(2番目の○)衛星姿勢変更などのクリティカルな運用の回避	衛星姿勢変更・ <u>軌道変更</u> などのクリティカルな運用の回避	静止衛星(帯電事故が最も多い)では、軌道保持制御(南北/東西制御)を、定期的実施しているため、避ける項目に書き加える。	そのように報告書を修正する。
53	JAXA 木本様	(今後の対処の方向性) ・・・このため、衛星を開発・運用する企業等は、宇宙天気現象の影響を十分に <u>考慮して</u> 、衛星設計及び衛星運用を行うべきである。	・・・このため、衛星を開発・運用する企業等は、宇宙天気現象の影響を十分に <u>考慮した</u> 衛星設計及び衛星運用、 <u>及びそのための研究</u> を行うべきである。	将来のため、宇宙天気現象の影響に関する研究が必要なため。	そのように報告書を修正する。

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
55	東京電力パワーグリッド 千喜良様	○1989年3月 …… 日本においても、2001年11月6日に発生した磁気嵐では、駿遠変電所で最大42AのGICが報告されている。	下線部を削除、または別項で記載	ケベック州、南アフリカで発生した事象と「駿遠42A」はレベルが違うため、列記することに違和感(ケベック州も数十Aで大停電が発生したと誤解される)	削除する。
55	東京電力パワーグリッド 千喜良様	もし数十年に一度の頻度で発生する大規模な磁気嵐が起きた場合には、相当量の地磁気誘導電流が発生し、電力系統の脆弱な箇所が被害を受けるおそれは否定できない。	削除。(文章が理解できないので修正案も浮かびません)	数十年に一度は既に経験済み。「〇年に一度の頻度で発生する磁気嵐」の規模が全く不明であり、「相当量の地磁気誘導電流」の値も不明であるため、被害を受けるおそれも否定できないが、被害も想定できない	具体的な修正案が示されていないため、原案のとおりとする。
55	送配電網協議会 宮村様	また、異常電流発生時に備えて、該当する変圧器の運転を一時停止するといった措置も 準備されている。	また、異常電流発生時に備えて、該当する変圧器の運転を一時停止するといった措置を 準備している事業者もある。	運用上の対策については、各事業者の設備形態によって異なるため。	そのように報告書を修正する。

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
65	スペースウェザー協会 上泉様	(小中高生や一般の興味・関心の醸成) ○小中高生、高専生、大学生、一般を対象に本分野の魅力や重要性を伝えることによって、宇宙天気に対する興味・関心を醸成し、本分野の研究人材や専門人材の供給に向けて裾野を広げていく必要がある。	(小中高生や一般の興味・関心の醸成) ○小中高生、高専生、大学生、一般を対象に本分野の魅力や重要性を伝えることによって、宇宙天気に対する興味・関心を醸成し、本分野の研究人材や専門人材の供給に向けて裾野を広げていく必要がある。 <u>○現状、具体的な活動は少数の民間組織に限られている。後述のコミュニティ形成とも関連があるが、宇宙天気ユーザー協議会アウトリーチ分科会参加の当該組織間での協力、協働が必要である。</u> <u>○特に小中高生や高度な技術知識を持っていない一般の人向けの宇宙天気教育を実践している組織はごく限られている。例として一般社団法人スペースウェザー協会は、小中高生向けの定期的な宇宙天気教育やSNSを活用して分かりやすい言葉を使った宇宙天気教育を実践している。</u> <u>○今後、小中高生や高度な技術知識を持っていない一般の人向けの宇宙天気教育を広めたいために、国からの「宇宙天気教育助成」のようなしくみの検討が求められる。</u>	宇宙天気に関する人材育成について最終的にはかなり高度かつT型人才が求められますが、p.62中段にも「若者の理科離れを防止し、子供の頃から本分野への興味・関心を醸成していく取組も必要となっている。」と述べられているように、子供向けの取り組みについて、現状認識と今後の課題を含めて、具体的な内容を述べる必要があると思います。	意見の趣旨を踏まえて報告書を加筆する。 なお、中高生・一般向けの宇宙天気に関する出張授業や定期的なアウトリーチ活動については、NICTや大学、学会等でも具体的な活動があるため、「民間組織に限られている」ことは無いため「研究機関・大学・民間組織等」とする。
78	東京電力パワーグリッド 千喜良様	<u>100年に1回程度</u> の頻度で発生する極端な宇宙天気現象	<u>100～1000年に1回程度</u> の頻度で発生する極端な宇宙天気現象	第8回検討会でそのように説明されていたため	「100年に1回またはそれ以下の頻度で発生する極端な宇宙天気現象」と修正する。
78	日本電気株式会社 廣江様	この期間においてGNSS(全球測位衛星システム)からの電波がGPS L1周波数の遅延量(疑似距離)として最大37m遅延する <u>もの</u> とした。	この期間においてGNSS(全球測位衛星システム)からの電波がGPS L1周波数の遅延量(疑似距離)として最大37m遅延する <u>ような電離圏状態が2週間発生している</u> とした。	単発で37mの遅延量が発生したとしても、2週間継続して測位が劣化するわけではない。おそらく想定しているのはそのような激しい電離圏環境が2週間続いていると想定していると理解した。 ※37mは230TECUにあたるが、日本で今までに観測された最大のTEC量という認識。	そのように報告書を修正する。

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
78	スカパー JSAT株式会社 宮田様	【別紙1】極端な宇宙天気現象がもたらす最悪シナリオ(詳細) 2. 想定に用いた前提条件 ② 2週間にわたりX10クラスの太陽フレアが連続して発生し、	② 2週間にわたりX20クラスの太陽フレアが連続して発生し、	最悪シナリオとしては、米国NOAA Scaleで“Extreme”と定義される基準と一致させる方が望ましいと考えるため。 https://www.swpc.noaa.gov/noaa-scales-explanation	「2週間にわたりX10クラス以上の太陽フレア」と修正した。
78	スカパー JSAT株式会社 宮田様	【別紙1】極端な宇宙天気現象がもたらす最悪シナリオ(詳細) 2. 想定に用いた前提条件 ④ 10MeV以上の高エネルギー粒子のフラックスが10,000PFU以上に達する期間が数日間継続し、	④ 10MeV以上の高エネルギー粒子のフラックスが100,000PFU以上に達する期間が数日間継続し、	最悪シナリオとしては、米国NOAA Scaleで“Extreme”と定義される基準と一致させる方が望ましいと考えるため。 https://www.swpc.noaa.gov/noaa-scales-explanation	そのように報告書を修正する。
82	日本電気株式会社 廣江様	航空機の運休や空港閉鎖	航空機の多数の運休	レーダが使用できない場合、IFRではなくVFRでの飛行になると想像する。その場合、空港閉鎖にはならないが、多数の運休/減便が予想される。	そのように報告書を修正する。
82	送配電網協議会 宮村様	p.38と同様に修正をお願いします	(p.38と同じ)	(p.38と同じ)	p.38と同じ
82	東京電力パワーグリッド 千喜良様	保護装置の誤作動が発生し、広域停電が各地で発生する	保護装置の誤作動が発生する	570Aが電力設備のどこに流れるか分からない状況で、「各地で発生する」というメカニズムが不明であるため。	「設備上・運用上の対策を措置していない電力インフラにおいては」と発生条件を限定的に記述しており、限定的な発生条件が記述されていることから、「各地で」(2カ所)は削除する。
100	スカパー JSAT株式会社 宮田様	シングルイベント効果の閾値(案) 右上の表 太陽プロトン(>10 MeV) 1000PFU以上(赤) 100-1000PFU(橙) 10-100PFU(黄) No Event(緑)	10,000PFU以上(赤) 1,000-10,000PFU(橙) 100-1000PFU(黄) 100PFU以下(緑)	下の表であるプロトン現象の表内の基準値(計測・予測可能な物理量)と一致させる必要があると考えるため。	そのように報告書を修正する。

頁	意見提出者	報告書の原案	その修正案	修正が必要な理由	検討会としての取扱(案)
102	送配電網協議会 宮村様	GIC 基準値は、NERC 基準を参考とした科学的判断により、Lv3 はNERC 基準である225A/3 相(暫定値)、Lv2 はその約1/2 である100A/3 相(暫定値)を基準とする(次ページの表)。	GIC 基準値は、NERC 基準を参考とした科学的判断により、Lv3 はNERC 基準である225A/3 相(暫定値)、Lv2 はその約1/2 である100A/3 相(暫定値)を基準とすることも一案として継続検討(次ページの表)。	警報、注意報の区分について、今後は電力事業者の意見を踏まえながら検討していくものと認識しているため。	当該部分はWGの検討結果であることから原案どおりとする。なお、今後は電力事業者が主体的に参加して基準等の見直しが行われるべきことはそのとおりであり、p.35にその旨が記述されている。
102	東京電力パワーグリッド 千喜良様	GIC 基準値は、NERC 基準を参考とした科学的判断により、Lv3 はNERC 基準である225A/3 相(暫定値)、Lv2 はその約1/2 である100A/3 相(暫定値)を基準とする。	GIC 基準値は、NERC 基準などを参考に事業者と引き続き継続検討を行う(次ページの表)。	警報、注意報の区分について、今後は電力事業者の意見を踏まえながら検討していくものと認識しているため。	警報の区分や基準値は、法律に基づき国立研究開発法人情報通信研究機構が判断すべきものであり、今回はその暫定値を記述したものであることから原案のとおりとする。
114	日本電気株式会社 廣江様	ユーザーヒアリング	どちらかに統一(「ユーザ」か「ユーザー」)	誤記と思われる。	報告書を修正する。
115	日本電気株式会社 廣江様	ユーザのヒヤリング	どちらかに統一(「ユーザ」か「ユーザー」)	誤記と思われる。	報告書を修正する。